

Nihongo Network News

1999.8.2発行

No. 22

TNVN東京日本語ボランティア・ネットワークは、ボランティア日本語教室活動を行っている団体のネットワーク（連絡協議会）として、情報交換や活動の活性化を図ることを目的に、1993年12月に結成されました。TNVNの会員はそれぞれの地域で日本語教室活動を通じて、言葉のために日常生活に不自由を感じている外国人などを隣人として支援しています。

TNVN 東京日本語ボランティア・ネットワーク

〒162-0823 東京都新宿区神楽河岸1-1

東京ボランティア・市民活動センター気付 ☎03-3235-1171

福岡市地域日本語教育推進事業の活動

全国に広がるボランティアの組織化

龍谷大学経済学部教授 田尻 英三

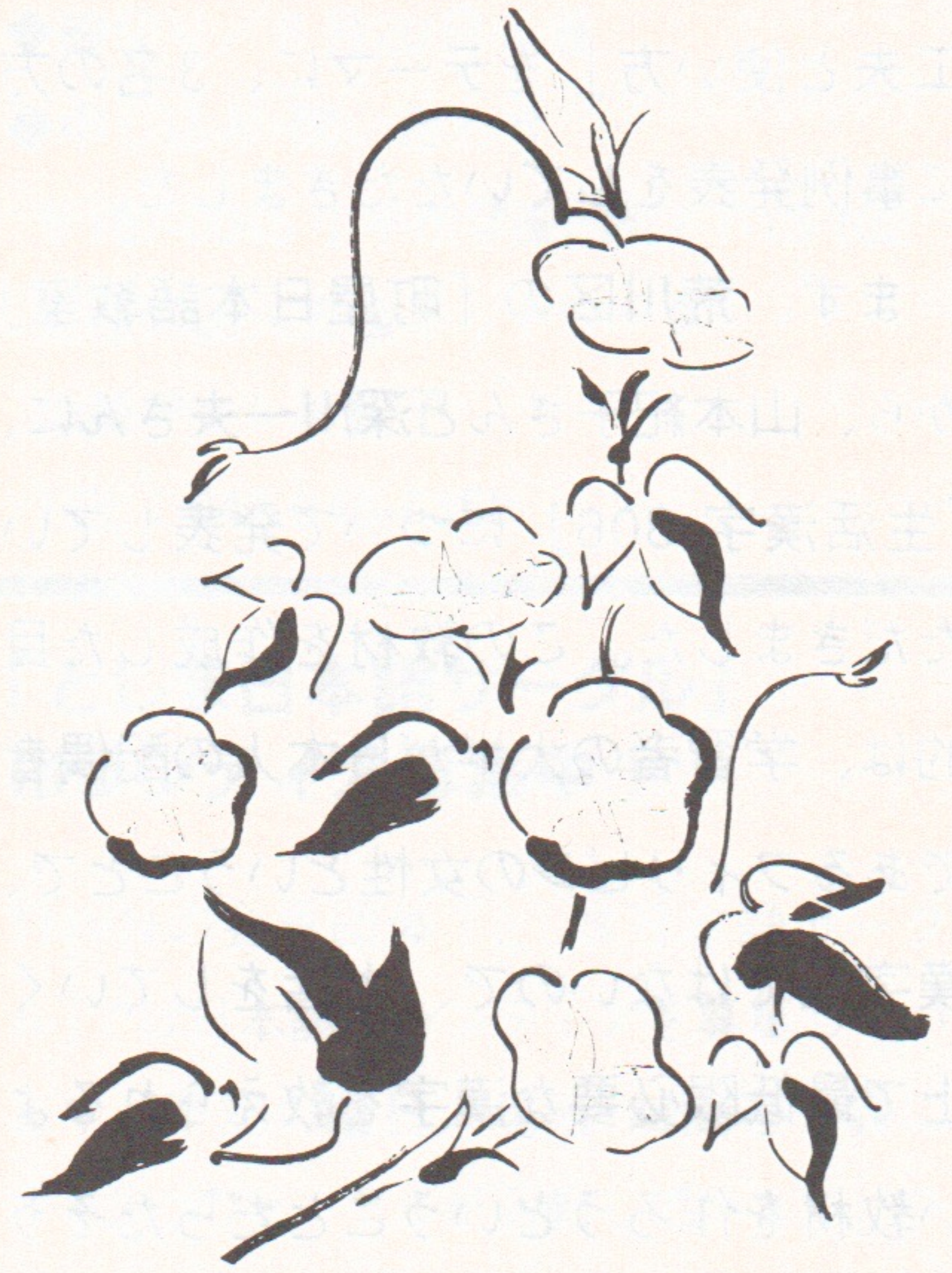
福岡市における文化庁委嘱の「地域日本語教育推進事業」も2年目に入りました。今年は、福岡市在住の外国人へのアンケート実施と、福岡市民にこのような活動をしていることを知ってもらうためのシンポジウムが中心的活动です。

シンポジウムは6月26日福岡市の中央市民センターにおいて、「福岡で楽しくらす 一外国人と日本語」と題して行われました。豪雨のなか、約300名の方が参加してくれました。このシンポジウムは、第1部としてシ

ンポジウム「生活支援と日本語」が、第2部として清ルミさん（常葉学園大学助教授）の模擬授業「楽しく身につく日本語」が行われました。

福岡市の日本語教育推進事業の特徴は、シンポジウムの題でもお分かりのように、「外国人の生活支援」を中心的なテーマと捉えています。地域社会で生活している外国人にとって、日本語習得は最も大事なポイントだと考えますが、日本語が習得できれば日本での生活上の問題が解決されたとは思えません。外国の方々

は病院や学校でさまざまな壁を感じているはず。それらの問題点を広い観点から解決するための試みとして、推進委員会のメンバーには、日本語教育学会



会長の水谷修先生をはじめとして、病院長・弁護士・留学生会の会長・小中学校の教員などにも入っていただいています。

この地域事業の目的のひとつに、日本語ボランティア組織の育成がありますので、東京日本語ボランティア・ネットワーク代表の中田紀子さんにも委員になっていただき、毎回、貴重なアドバイスをいただいています。もちろん、ここでいう「外国人」は国籍上のことだけを指すのではなく、日本人と結婚した外国人の方も含まれます。この地域事業はあと1年でまとめに入りますが、今後とも東京日本語ボランティア・ネットワークの方々のご支援をお願いします。



交 差 点

ネットワーク情報交換会レポート

第8回ネットワーク情報交換会
7月16日(金) 18:00より

自主教材の工夫と使い方

今回の情報交換会は、「自主教材の工夫と使い方」をテーマに、3名の方に事例発表をしていただきました。

まず、荒川区の「町屋日本語教室」から、山本紀子さんと深川一夫さんに、『生活漢字 306』について発表していただきました。この教材を作成した目的は、学習者の大半が日本人の配偶者であるフィリピンの女性ということで、漢字圏ではないので、生活をしていく上で最低限必要な漢字を教えられるよい教材を作ろうということだったそうです。ひらがな・カタカナができるようになってから、この教材を使用しているとのことですが、その特徴というのは、場面設定をした会話文のなかで、漢字を習得させていくというものでした。この教材に載せた漢字というのは、フィリピンの人たちが知りたいと思っている、必要度の高い漢字を調査し、306字にまでに絞り込んだものだそうです。ただ、音読みと訓読みを同時に教えるかどうか難しいところのようです。

続いて、昨年まで大阪の「弁天町日本語勉強会」に所属して、新聞でも話題になった『にほんごくあいうえお』の作成にたずさわった石原弘子さんにお話をいただきました。この教材は、入門者の方に、最低これだけは学習して欲しいというもの、そして、ポ

ランティア教室で使えるものがほしいということで作成されたそうです。

特徴は、文字習得の本ということで、特にひらがなをどう教えるか、というところにあるようです。必要なことば、または、最初に出会って欲しいことばというものを載せて、単語として覚えてもらう。そうすると、すでにひらがなが全部できるようになっている、という構成になっているようです。教え方としては、まず、音を聞いて、それを発音する、そして読む、というようにしているそうですが、使い方は自由です、ということでした。

『生活漢字 306』と『にほんごくあいうえお』の共通点は、漢字やひらがなをひとつひとつ教えていくのではなく、生活の中に出てくる単語として教えるというもので、すぐに実用できるもののなかに教えたものを織り込んでいるのだ、というところにあるようです。

そして、最後に、特に自主教材というものは作っていないそうなのですが、北区の「日本語ともの会」の山本敬子

さんから、入門者・初級者・中級者をどう教えているか、ということについてお話ししていただきました。

入門者には、絵を見てもらい、身振り手振りで教えるという方法をとっているそうです。そして、何度も繰り返して言わせることによって覚えさせる、ということで、まさに語学教育の基本的な学習法だと思いました。そして、教室で使うことばなど基本的なことばを教えて、それからいろいろに発展させていっているようです。

初級者には、いつ、どこで、だれが、を中心にして、会話のなかに文法を織り交ぜて、やはり反復学習をさせているようです。中級者には、サイコロの1から6にテーマをつけておき、その出た目のテーマで会話を試みているそうです。

事例報告は以上3例だけだったのですが、時間が足りなかったことが残念でした。ただ、これから自主教材を作ろうという人にとっては大変参考になるいいお話ばかりだったと思います。

(外口 光博)

次回のネットワーク情報交換会のご案内

◆日時／9月17日(金)18:00～

◆会場／東京ボランティア・市民活動センター 会議室

今回は、特別テーマとして「外国人の生活支援／家庭崩壊」ということで、情報交換をしてみたいと思います。多数の皆様のご参加をお待ちしております。

ボランティア日本語教室での学習は、日本語学校と違って学習者のニーズもさまざま。そのため既存のテキストや教授法通りにはいかないことも多く、学習者に合わせた工夫も必要です。ここでは、日本語学習者を支援するときに、役立った教材、理解を早めたアイデア、上達を助けるコツなど、経験から生みだされた工夫やアイデアをご紹介します。学習のなかで効果をあげているボランティア日本語教室ならではのアイデアやヒントなど、皆さんの財産もぜひご提供ください。

●ボランティアからの提案

江戸川日本語交流会 (江戸川区)

1. 生教材をたくさん使う

日本語を学習するにあたっては、文法的なことをしっかり押さえるとともに、実際の場面での活用も考えていなくてはなりません。そこで、なるべくたくさんの生教材を準備するように心がけています。

◆新聞の折り込み広告…数字の読み方、買い物の仕方、値段が高い・安い、どれを買うか、どちらが好きか、など

◆折り紙…色を学習する、何色が好きか、今着ている服の色は、いろいろな形に切ってどちらが大きいか、丸・四角などの形、など

2. 絵カードの活用

身近にある生教材だけでは限りがあるので、動詞・形容詞の絵カードを使います。これで、語彙を増やすとともに、前後に言葉をつけて一つの文にしていきます。実際の場面をイメージして練習すると、楽しくなります。

◆「飲む」のカード…飲みます、コーラを飲みます、私はコーラを飲みます、コーラを飲みますか、いつ飲みますか、誰と・どこで飲みますか、など

◆「大きい」のカード…大きいです、大きい・小さいの比較、このカバンは

大きいですか、これはどうですか、など
絵カードは「ます形」から始まって、「た形」「て形」等、活用形がでてくるたびに使います。同じカードを何回も使っているうちに言葉も覚えますし、形の変化もわかりやすいと思います。

3. 時制の教え方

(これは新宿日本語学校江副先生の教授法のアレンジです)

- 自分を中心にして、手を前に出して手のひらを上…食べます
- 自分を中心にして、手を前に出して手のひらを下…食べません
- 横に少し出して、手のひらを上…食べています
- 横に少し出して、手のひらを下…食べていません
- 後ろに出して、手のひらを上…食べました
- 後ろに出して、手のひらを下…食べませんでした

このように言葉では説明しにくいものは、ジェスチャーを取り入れるとわかりやすいと思います。形がわかったら、手を動かしながら「私はきのうハンバーグを…」と練習します。

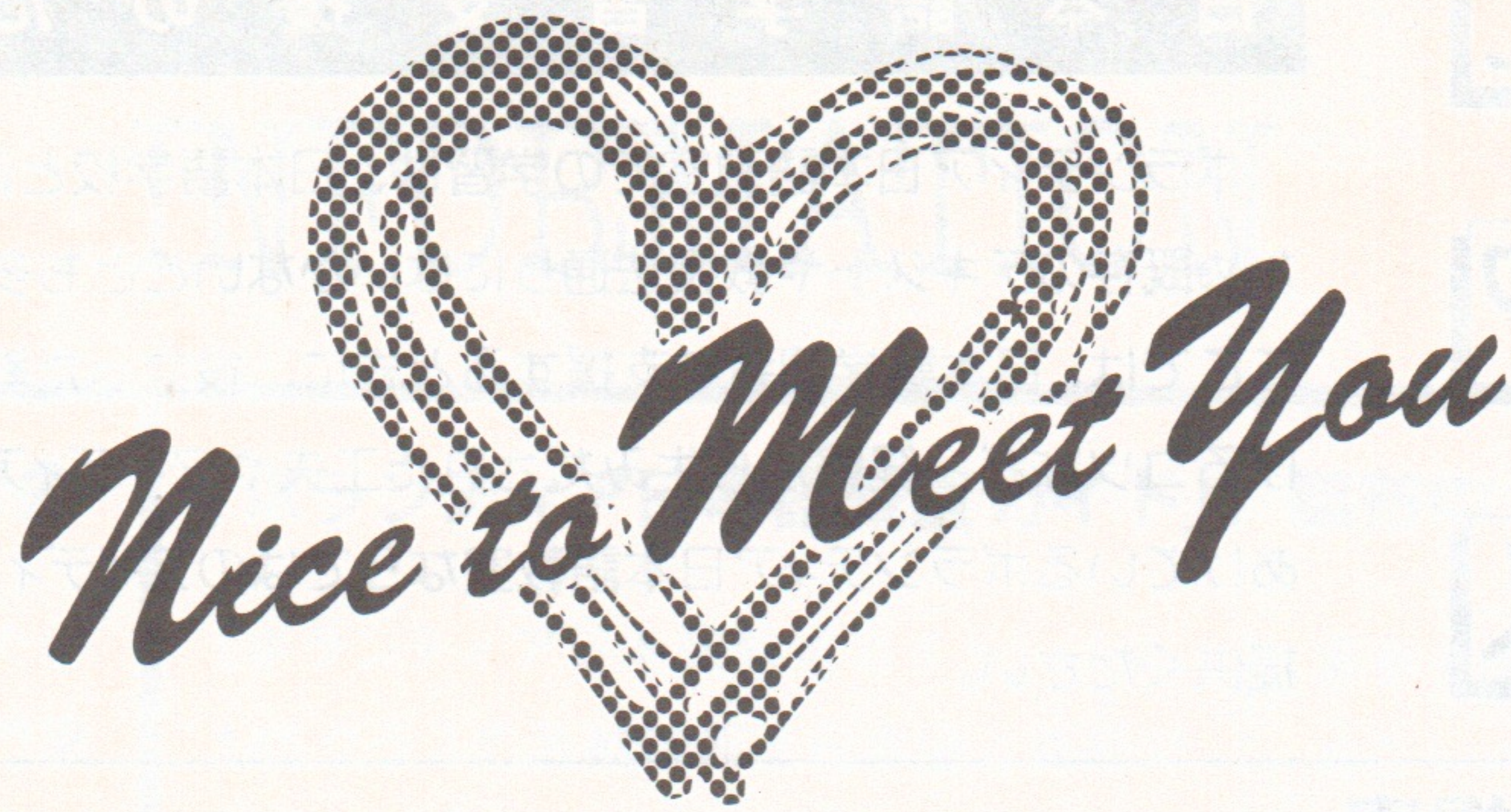
4. 料理講習会や地域の行事への参加

私たちの教室には主婦の方たちが多いので、1年に2回くらいお国自慢のお料理を紹介してもらう機会を作っています。料理室を借りて、皆でおしゃべりしながら楽しく作ります。これは親睦を目的に始めたものですが、思いもかけず、煮たり焼いたり料理用語ができてきますし、手順の説明をしたり、それこそ普段何気なく使う言葉の宝庫です。

また、地域の行事「ふれあい祭り」に参加して、毎年、バザーをしています。中国の方に教えてもらった餃子を作ったり、今年は韓国のチジミを作って売りました。

皆で協力して、作ったり教えあったり売ったりして、教室という枠から離れた親睦がはかれます。そして、これはまた学習者にとっては自然な言葉を学ぶいいチャンスになっているかも知れません。私たちボランティアが楽しんでやっていたら、きっと学習者たちも楽しんでくれるだろうと信じて、このような機会をおおいに利用しています。

私たちは、学習者の皆さんが一日も早く日本語を覚えて、日本での生活が元気で楽しいものになるようお手伝いできればうれしいと思います。



また来週!

話しましょう、日本語を(目黒区)

西村 和子

「また行きたい」「また会って日本語で話したい」と思ってもらえる会を目指してまる十年。私達の会は区の講座終了後の1989年に発足した自主グループです。

毎週火曜日 (AM10:00~PM2:00)、会員が早く日本の生活に馴染み楽しい日々が送れるよう、日本の文化や習慣等も取り入れながら日本語の学習を手伝っています。入会は随時可能で、クラスは学習者のニーズに応えるうちに6クラスになりました。



覚えたての日本語を試す絶好のチャンスは、茶菓子を囲んでのティータイムで会員の楽しみになっています。料理、着付け、お花見、クリスマス会などの楽しい行事も、毎年、会

員の要望に応じて適宜開催し、喜んでもらっています。

日本人ボランティアは9名で、各々が強く自己主張することなく、自分のできることを気持ちよく引き受ける和やかな雰囲気、今日まで会を支えてきたのだと思います。当初、主婦が楽しく日本語や日本文化を学習する雰囲気だったこの会も、男性の入会や若い会員の意欲により、日本人ボランティアもうかうかしてられない状況で、毎年夏休みにも特別クラスを開いています。

会員はイタリア、中国などとすでに延べ40数か国にもなり、口コミだけでこんなにたくさんの人達と出会えたことは本当に幸せなことです。これからも、「また来週!」と次回を楽しみに感じてもらえる魅力的な会にしていきたいと思います。

誰にも住みよい街をめざして

浦安市国際交流協会

日本語ボランティアグループ(浦安市)

浦安に住む外国人との交流を目的とする委員会の中に、私たち日本語ボランティアグループが生まれたのは5年前で、現在受講中の学習者は95名、登録ボランティアは130名です。

夜の部は、月曜日と火曜日の午後7時から、公民館の1室を借りて賑やかに、昼の部は、月曜から金曜までの好きな時間に、市の国際交流課の会議室で比較的静かに、学習しています。学習者とボランティアのうちのどちらかの都合で、互いの自宅で学習することもあります。

学習者の出身国は30か国、年齢・職業・日本語のレベル・学習目的・滞日年数とすべて多種多様で、親切に各人に対応するべく必然的にマンツーマン方式になってしまったのですが、果たしてすべてこれで良いのかとスタッフは悩んでいます。

また、グループで年3回の交流会や研修会・講座を開く以外は、日本文化体験や大勢の日本人との交流の場は、他の委員会の行事への参加で補っています。地域に住んでいる外国人の言葉の面の支援もと考えて発足した日本語ボランティアグループですが、より具体的な交流活動を求めている市民がこれぞとばかりに参加したため、

ボランティアが急激に増加し、そのチームワーク作りが現在の大きな課題となっています。



日本語だけでなく、 社会や文化も学びたい

姜 珍瑛 / 韓国 (弥生日本語教室)

を学んで自分の意志を伝えられるようになりたい会員たちの熱意がいっぱいなので…。

日本語を学びながら日本の社会や文化を接することが楽しいです。6月1日には料理教室が行いまして、わずか1時間半でりっぱなBuffetが出来上がりました。本場の日本・中国・韓国料理がたくさん並んでしあわせでした。もちろん味も最高！

週に1回日本語教室に行くことを楽しみにまっていますので、これからもよろしくお願いします。ありがとうございます。

私は韓国から来てもう半年になりました。外国で暮らしている私達に日常生活を送っていく上で、まず困るのは言葉です。子どもの学校や保育園などの手続きのときもこちらの意志が伝わらず苦労したこともあります。

私が住んでいるところの隣にボランティア日本語教室があると聞いて、すごく嬉しかったです。さっそく行ってみようと思って弥生日本語教室へ足を運びました。いつも賑やかな雰囲気、2時間があっという間に過ぎてしまいます。すばらしい先生達と日本語

ご主人の仕事のために来日した朴さんは、当初、言葉がわからないために日常生活も楽しくありませんでした。ある時、病気になり1か月ぶりに外出した彼女は、梅雨の町角に色鮮やかに咲くあじさいの花を見つけ、東京での生活が楽しく感じられるようになったそうです。(長文なので、後半をご紹介します)

日本での生活はキャリアの中断ではなく、神様が私を休ませるようにしているのだと自分に言い聞かせることができた。なによりも日本でのさまざまな経験は、大切な勉強だと信じる。

私はこれまで人の能力を学校とか会社、年俸の額で判断していた。そんな私は、つまらなく見える家事などにプライドを持って尽くしている人を見て、考えが変わった。日本語教室のボランティアの先生たちもそうだ。

何も受け取らなくても、知識や経験を楽しく教える。ボランティアというコンセプト自体が、前の私には考えられないことだった。

最近、日本語教室での自己紹介のとき私は「私の日本での生活はこれからだと思います」と言った。以前は「主人のせいで日本に来た韓国人です」というのが私の自己紹介だった。今やっと、この世の中で自分の知ってることがいかに少ないかがわかるようになった。

不満ばかり、うらみばかりの私に、ある日、ぱっと新しい心を教えてくれた紫の花。ちょうど1年前のことを思い出しながら、雨の道を明るくしているこのあじさいに笑顔を試してみる。これから1年後の私がどう変わるか見守ってね。

東京の生活を変えた あじさいの花

朴 賢東 / 韓国 (弥生日本語教室)

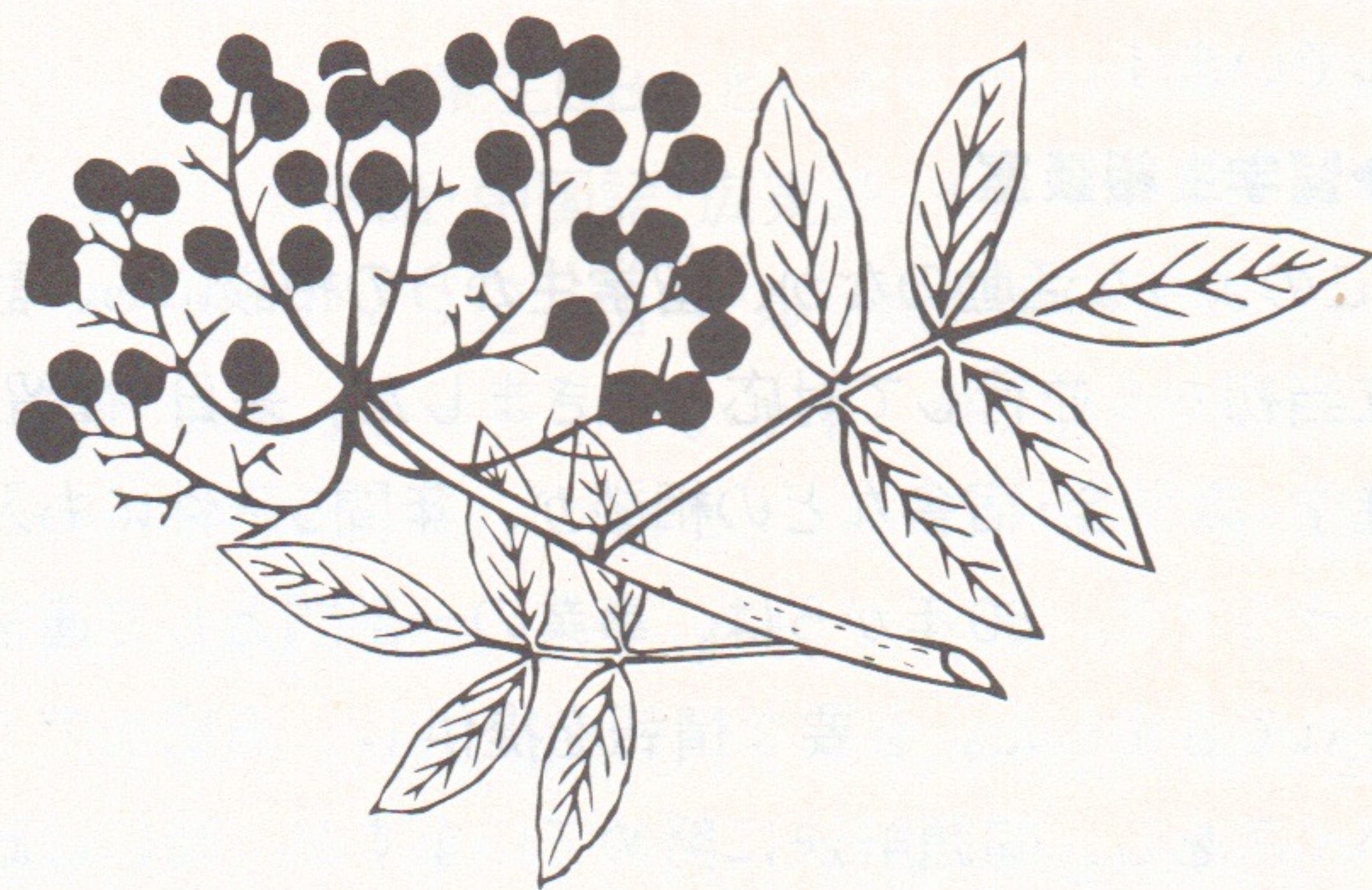
の授業を週2回行っています。学習者の90%が家庭の主婦で、子どもの教育を担う人たちですから、4スキル全般にわたる勉強に取り組んでいます。

活動も8年目に入って、うれしいことに卒業生が教室のヘルパーやベビーシッターとして参加してくれるようになりました。この人たちは母語で学習者の悩みを聞いたり、学習者とそのご主人の通訳など大きな役割を果たしてくれます。

いろいろな問題もでてきますが、柔軟に、そしてときには精一杯のカラ元気で乗りきっていきたいと思っています。

外国人とともに暮らす コミュニティーを

梅原 十糸子 (はんのう日本語クラブ)



私たちの会の趣旨は「地域に外国人とともに暮らすコミュニティーを作ろう」というものです。日本語教室はその中心になる事業です。学習方法はクラス形式で、現在、初級23名、中級18名で各クラス1回2時間

財団法人 アジア学生文化協会

〒113-8642 東京都文京区本駒込2-12-13 アジア文化会館 (ABK)
TEL: 03-3946-4121 FAX: 03-3946-7599

アジアからの留学生を 多彩な活動でサポート

'80年代後半に入って、日本に勉強に来ている留学生の数は、飛躍的に増大しました。なかでも、中国、韓国を筆頭に、アジア諸国からの留学生が9割を占めているとのことでした。

そこで今回は、戦後まもなく小さな民間の学生寮の時代から、主にアジアの学生と学術・文化・経済の交流をはかり、アジアの親善と世界平和に貢献してきた(財)アジア学生文化協会をお訪ねし、常務理事の工藤正司さんにお話をうかがいました。

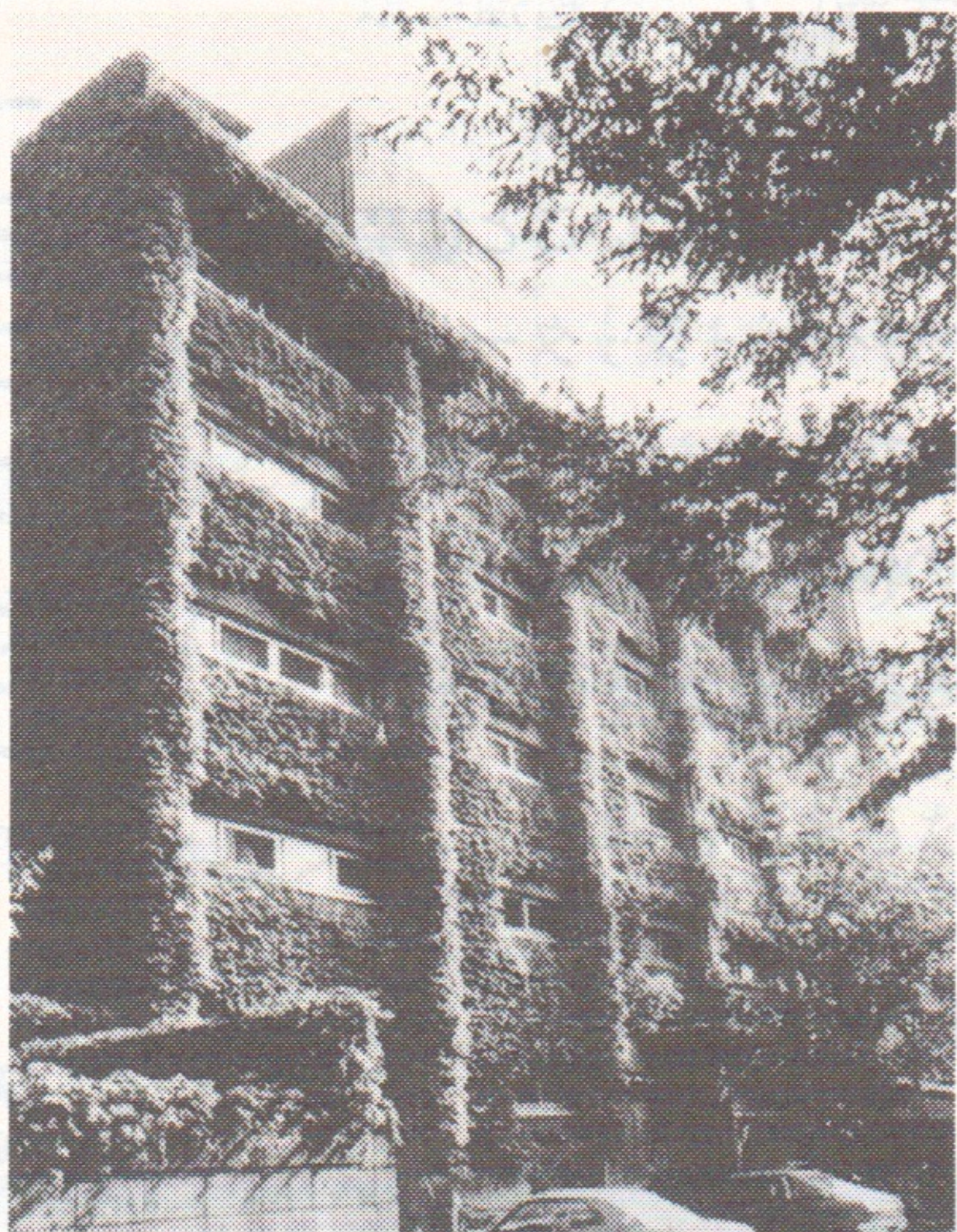
アジア学生文化協会が運営しているアジア文化会館は、つたの絡まる歴史を感じさせる建物です。そのなかに入ると、学生に向けてのインフォメーションが掲示されたり、チラシが置かれたりと、まさに情報満載という印象でした。

長い歴史が語る協会の姿勢

大正の終わりごろから思想・哲学などを論じ合う若者のたまり場となっていた民間の寮(至軒寮)が、アジア学生文化協会発祥の地です。戦後、至軒寮から新星学寮と改称され、日本の再建を担う若者たちの切磋琢磨の場となり、同時にアジア諸国との関係の難しかった時代に、留学生の貴重な受け入れ場所ともなりました。

'57年には、新星学寮内に東大アジア学生友好会

を結成し、留学生との交流活動をはじめました。'57年に、文部省所管の財団法人



として設立を許可され、'59年には通産省の技術研修生を受け入れる海外技術者研修協会も設立。'60年、現在のアジア文化会館が建設され、アジア学生文化協会としての活動がスタートしました。

協会の運営にあたっては、民間の立場に立って、政府の関与を受けない姿勢を通し、独自の方針を守ることを貫きました。この姿勢は現在も受け継がれ、この協会の運営の特徴となっています。

多彩な事業で留学生を見守る

◆学生寮の運営

協会が運営しているアジア文化会館 (ABK) では、アジア・アフリカ・ラテンアメリカを始め諸外国から常時20数カ国120名の留学生・研究者・日本人学生が「全ゆる民族・全ゆる個人の自主・平等」の原則のもとに、職員と学生とが自治会を組織し、共同生活を営んでいます。母体となった新星学寮、その姉妹寮である蒼生寮もまた同様。また、東京都が、友好都市・北京市の出身留学生に提供している東京都太田記念館 (杉並区久我山) の委託運営も行っています。広島市に支部があり、地元の方々によって広島アジア文化会館 (広島ABK) が独自の共同生活を営んでいます。

◆留学生相談室

このような活動のなか、留学生からの相談にも、設立当初から並行して対応してきました。来日・在留・進学・奨学金・宿舎などの相談が、年間5千件にも及ぶそうです。'80年からは、事業の一部門として運営されてきました。必要な情報を提供し、適切なアドバイスをし、問題解決に努めていますが、時には政治的弾圧を受けた留学生や不法残留者などの難しい問題にも対応しなければならぬことも。そのためにも他の留学生相談室との間にネットワークを作り、より多くの情報を交換し、また共同調査などに





も取り組んでいます。

◆日本語コースの開設

'82年に海外技術者研修協会が北千住に移転したのに伴って、翌年には大学進学をめざす留学生のために日本語及び基礎教科を教える日本語教育機関を開設しました。その後、大学院・専門学校をめざす留学生に対する日本語専修のコースも併設され、現在6ヵ月・1年・1年半のコースで約150名が日本語を学んでいます。

学部進学の留学生には、日本語のほかにも、入学してからの大学の授業に支障がないように、文系・理系別に世界史や数学・物理・化学そして日本事情のクラスも設けられており、留学生活のスタートに対してのきめの細かい配慮がなされています。授業はかなり厳しく、アルバイトなどをしながらでは、続けられないそうです。夜遅くまで食堂などで寮生や外部の学生がいっしょに勉強していて、なかには消灯時間に電気を消されても困らないように電気スタンドを持ち歩いている学生もいるとか。ほとんどの学生が希望の大学や専門学校に進学できるそうです。

◆ABKアジアセミナー

アジアとの交流を深めるために、日本人に対してアジアの文化や言葉を学ぶ機会を提供するために開設されました。留学生OBなどによりアジア諸国の語学講座（コリア語・中国語・広東語・インドネシア語・ベトナム語・フィリピン語・ビルマ語）や、同時にその翻訳・通訳なども行っています。他に、健康面からアジアの文化に触れる機会のひとつとして、太極拳・気功の講座も開設しています。

さらに、日本に留学している芸術分野の留学生は2000人ほどいるそうですが、絵画・音楽・演劇などの芸術関係の留学生や日本で活動している若いアジア諸国の芸術家による発表会や公演を企画し、アジアの文化を広めています。しかし、芸術部門は費用もかかり、これまで日本自転車振興会等の補助金を受けるなど、資金繰りにはたいへん苦労しているとのこと。

◆中身の濃い広報誌

月刊の広報誌『アジアの友』には、奨学金の募集・ホームステイや宿舍の紹介、また卒業生からの寄稿、アジアに関する記事など有益な情報がたくさん掲載されています。留学生と日本人の交流だけでなく、アジアについての啓蒙にも役立っています。

◆奨学金で留学生を支援

留学生への経済的な援助として、留学生草の根奨学金（市民からの募金によるもの）・留学生里親奨学金（同上）・アジア文化会館協力奨学金（企業からの助成金によるもの）などの制度があります。昨今の不況から、奨学金を提供してくれる企業も減り、円高により留学生の生活も厳しくなるなか、少しでも多くの奨学金が支給されるよう努力しています。

||| 卒業生が世界に広げるABKの輪

ABKで生活し、その後帰国した人たちによって、各地で同窓会が作られ、17カ国に地域センターと連絡所があります。ABK内に同窓会事務局がおかれ、その連絡・調整にあたっています。年代は違ってもABK出身ということで、協力して母国に貢献し、経済技術振興や日本語学校設立などに寄与しています。ABKで培われた自治精神や友情が各国で実を結ぶことは、工藤さんはじめABKの関係者にとっては一番うれしいことではないでしょうか。

学生時代、アルバイトでの資金集めによって蒼生寮を自分たちで開設し、その後もずっと運営に携わってきている工藤さん。工藤さんのインタビューの受け答えのそこそこに学生への温かい愛情が感じられ、ここABKが、母国を離れて厳しい環境のなかで勉学を続けているに留学生にとって安らぎの場所となっていることを確信しました。

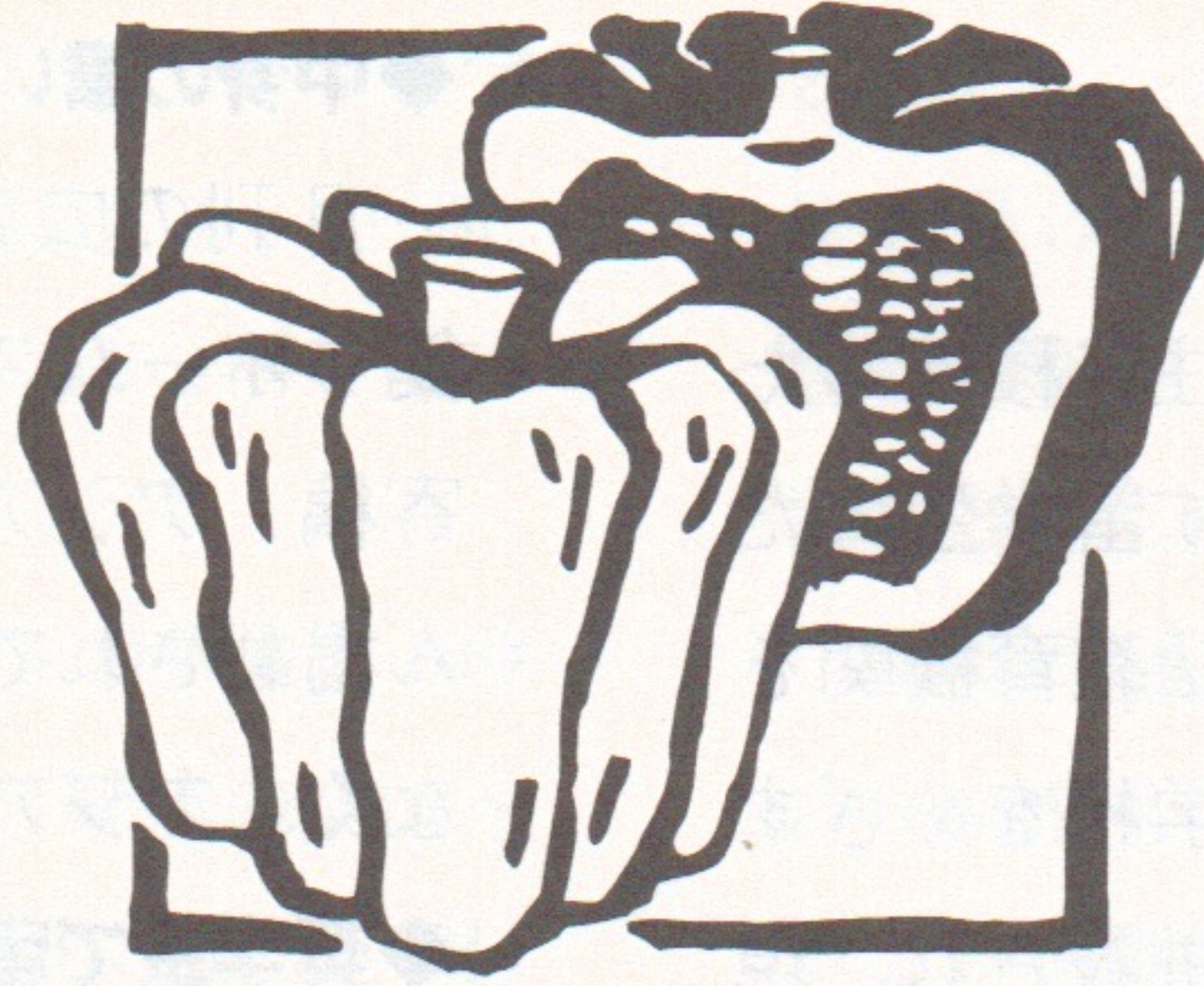
設立当初の趣旨である「人間的和合と互惠協力の精神」が将来も変わらずに受け継がれて、アジアから世界のために貢献する人々の語らいの場として、これからも発展していくことを心から願っています。

(写真提供/ (財)アジア学生文化協会)

前回は、ある特定の母語を話す人々が同じような“文法的な間違い”をする例をいくつか挙げて、それが人間関係に影響を与えるのではないかという話をしました。今回はそれに関してもう少し考えてみたいと思います。

まず、“間違い”とは何かという問題があります。“日本語らしくない”表現は日本語ではないのでしょうか。たとえば「私は結婚がほしい」といったら間違いだとされ、「私は結婚したい」と直されてしまいます。「ほしい」は名詞的表現、「たい」は動作や行動だと説明されますが、同じような意味で「私は妻がほしい」とも言いますし、「私は結婚がほしい」が理解できないことはないと思います。そういう点では“方言”の場合はどうなるのか、方言は日本語ではないのか、という問題にもつながってきます。

次に、前回述べたように、母語によって同じ間違いをする傾向も、理由がわかればそれなりに対処できるかもしれませんが、だからといって同じ母語話者が必ず同じ間違いをするとは限りません。人によって母語の影響が強い人と弱い人がいるからです。さらに、間違いの原因がわかったからといって、間違いがすぐ直せるわけではないということもあります。逆に、間違いは直さなければいけないと



考えることがストレスとなって、それが人間関係に悪影響を及ぼすことがあることも考える必要があります。

私の友人でA国の人がありますが、彼は発音がかなり不明瞭で聞き取るのがなかなか難しいのですが、慣れてしまえばほとんどわかるようになります。私は今でも時々何を言っているのかわからないこともあります。日本人の奥さんよの会話には全然支障はないそうです。最初は私も日本語教師なので、彼に“正しい発音”とか“正しい日本語”を教えようと思っていましたが、友人なのになぜ教えなければいけないのか、なぜ楽しく付き合うだけではいけないのかと思い始め、今では教えるとか教わるというようなことは全然していません。

もちろん、文化によって生活習慣や考え方が違うのは当然ですし、日本に住んでいる外国人にとっては日本について聞きたいことがたくさんあるでしょうから、聞かれたことは教えてあげればよいと思います。

ただ、いつも教えるだけでなく、逆にこちらも知りたいことがあればどんどん聞いてみるというのはどうでしょうか。つまり、一方的に教えるという関係ではなく友人・隣人としてつき合っていくというだけのことですが、案外それが難しいことなのかもしれません。

T N V N 運 営 委 員 会 か ら の 報 告

① 第1回 社会福祉協議会実践部会に参加／6月

TNVNは昨年同様、社会福祉協議会実践部会に運営委員として参加。実践部会では「ジャンルの違うボランティア同士の横のつながりを強化」「今の活動を未来につなげるためのリーダーの育成」を目的に、今年度もボランティアリーダー研修会を開催の予定。

② 第3回 移住労働者と連帯する全国フォーラム・東京 '99に参加／6月

「第11分科会 社会教育と移住労働者」に事例報告者として中田代表が出席。日本語ボランティアの他に、図書館や公民館活動にかかわる団体からの事例報告があった。日本語ボランティア活動についての認識がまだまだ浸透していないことを実感した。

③ 東大和市日本語ボランティア講習会に協力／5～7月

東大和市からの依頼で日本語ボランティア講習会のプログラム作りに協力。また、講習会の講師として中田代表と林川事務局長が出席した。

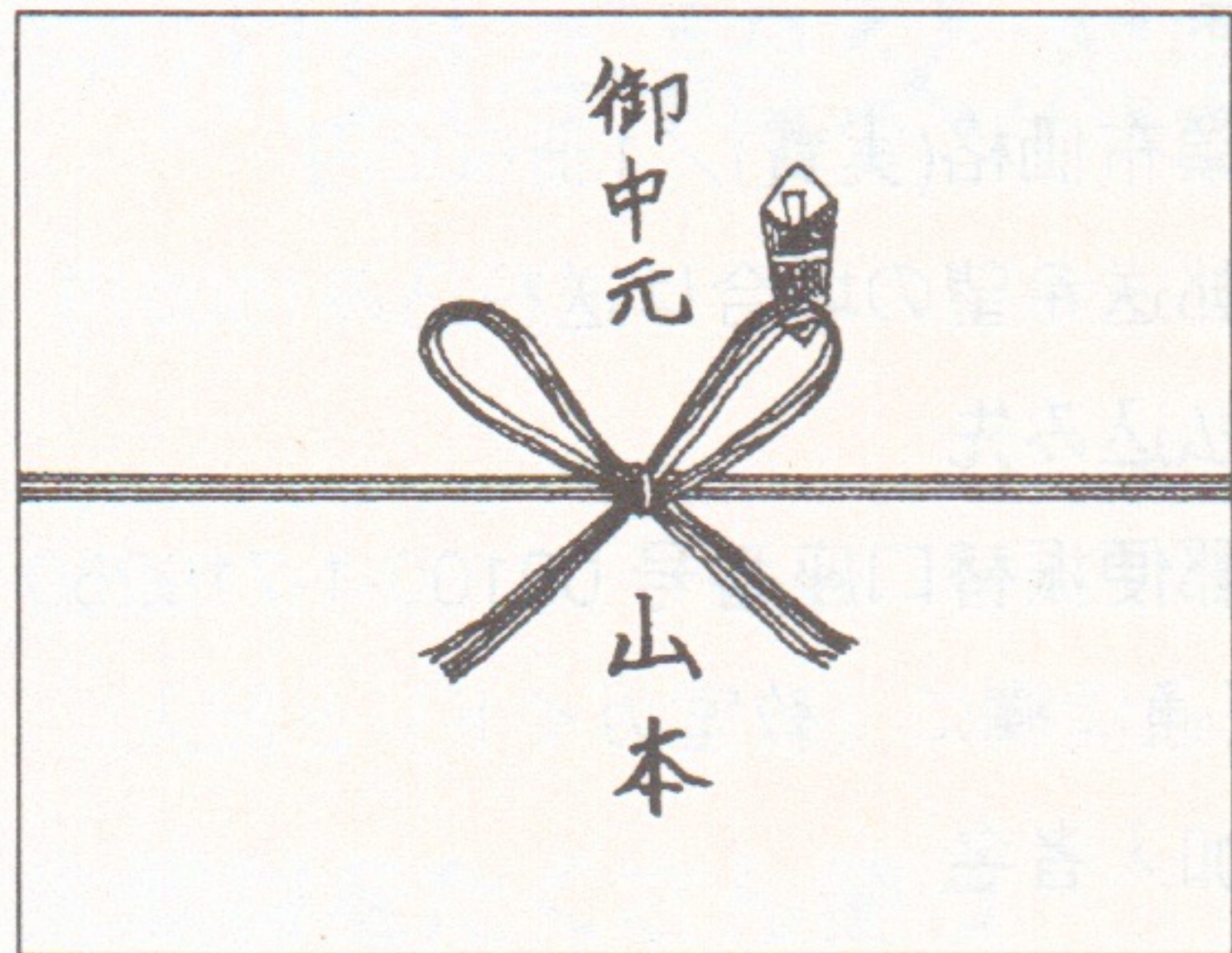


日本の常識

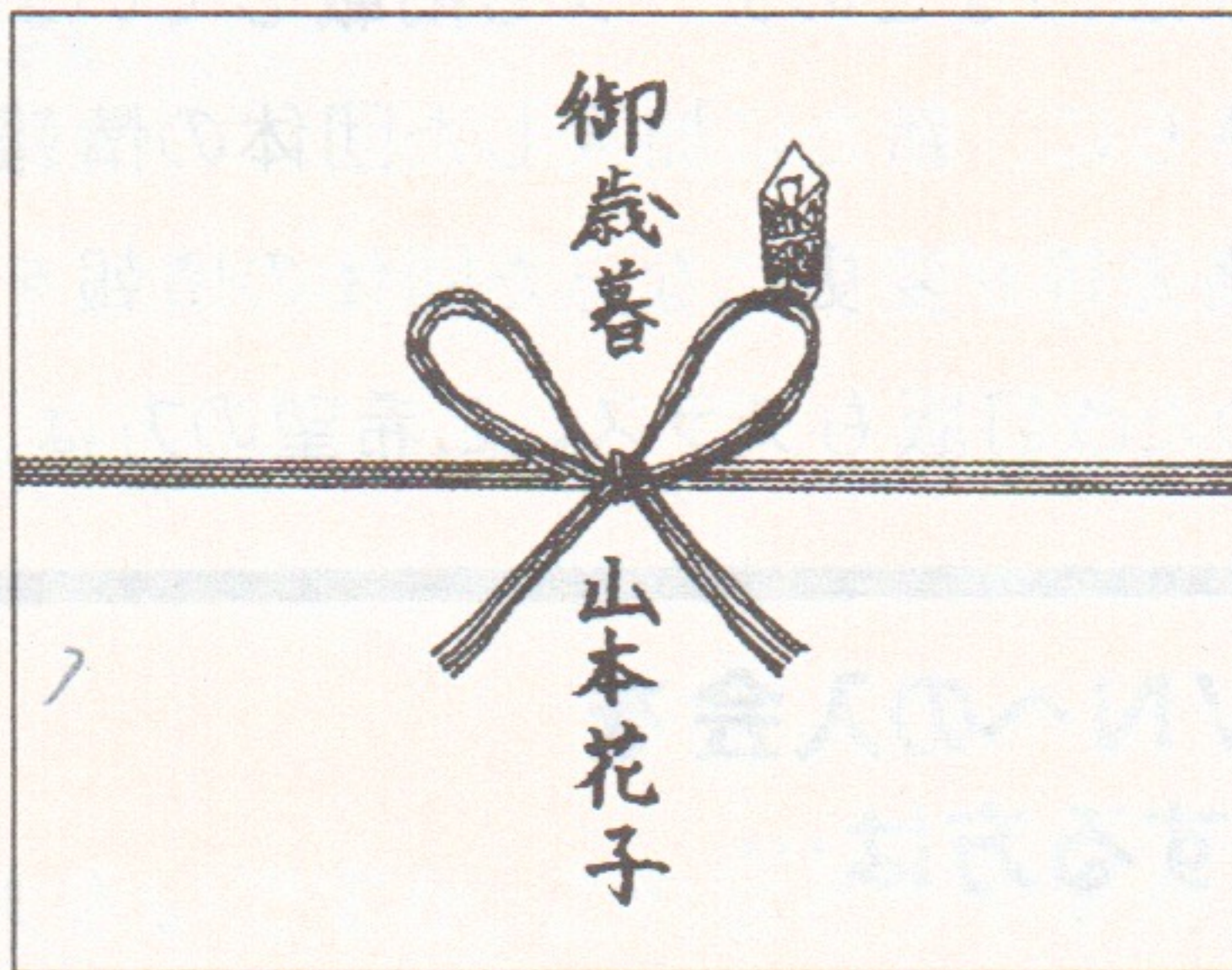
Common sense in Japan

第5回 お中元とお歳暮

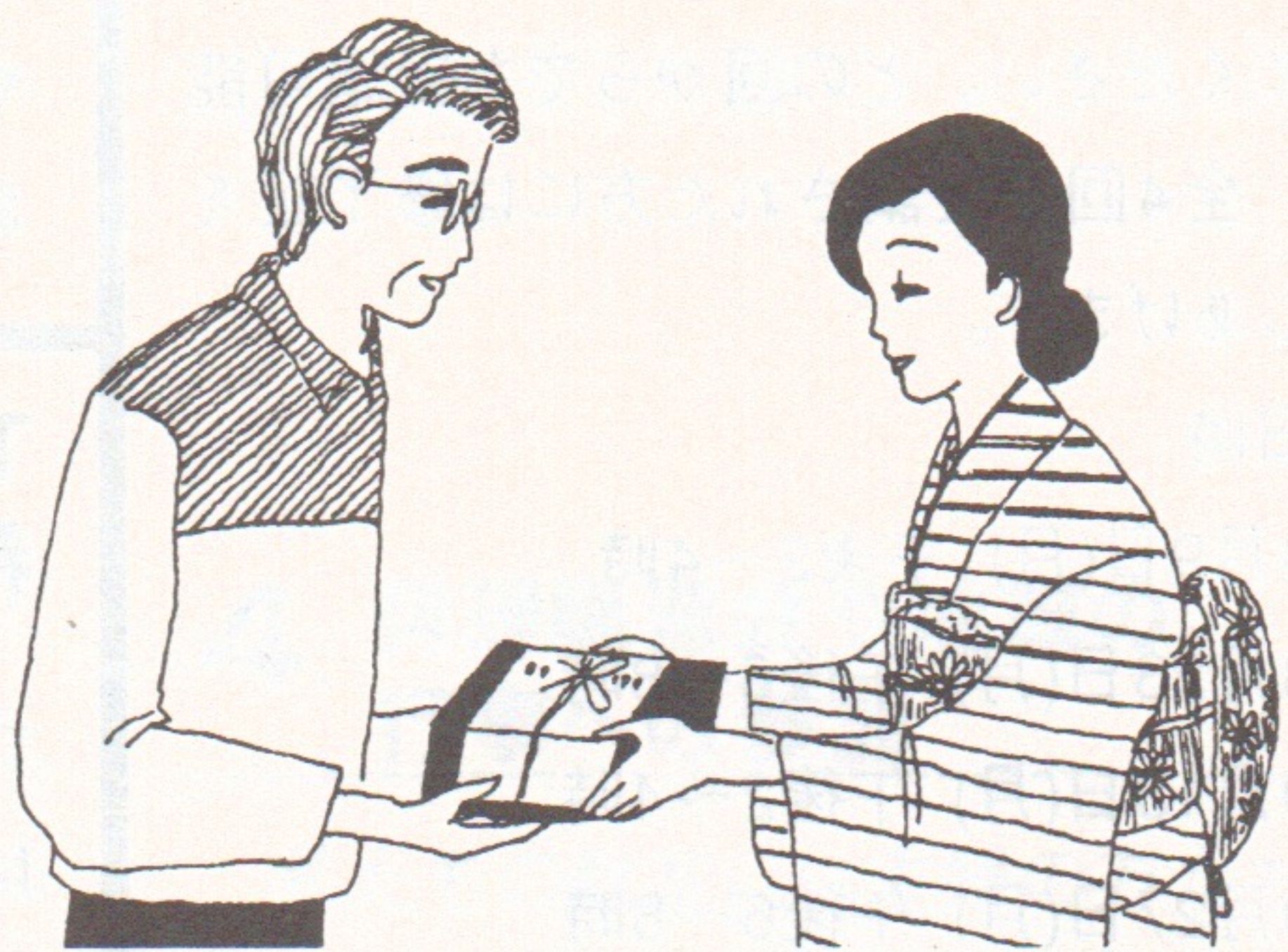
梅雨の時期を迎え夏が近づく頃、6月の中旬ぐらいからデパートやスーパーなどに、「お中元」のコーナーが登場します。では、このお中元、誰が何のために贈るのでしょうか？ また、年の瀬が近づいてくる時期にも同じように「お歳暮」コーナーが設置されます。どこがちがうのか、比較してみることにしましょう。



年下の人に贈るときは名字だけでよい



目上の方に贈るときは、氏名を書くのが礼儀



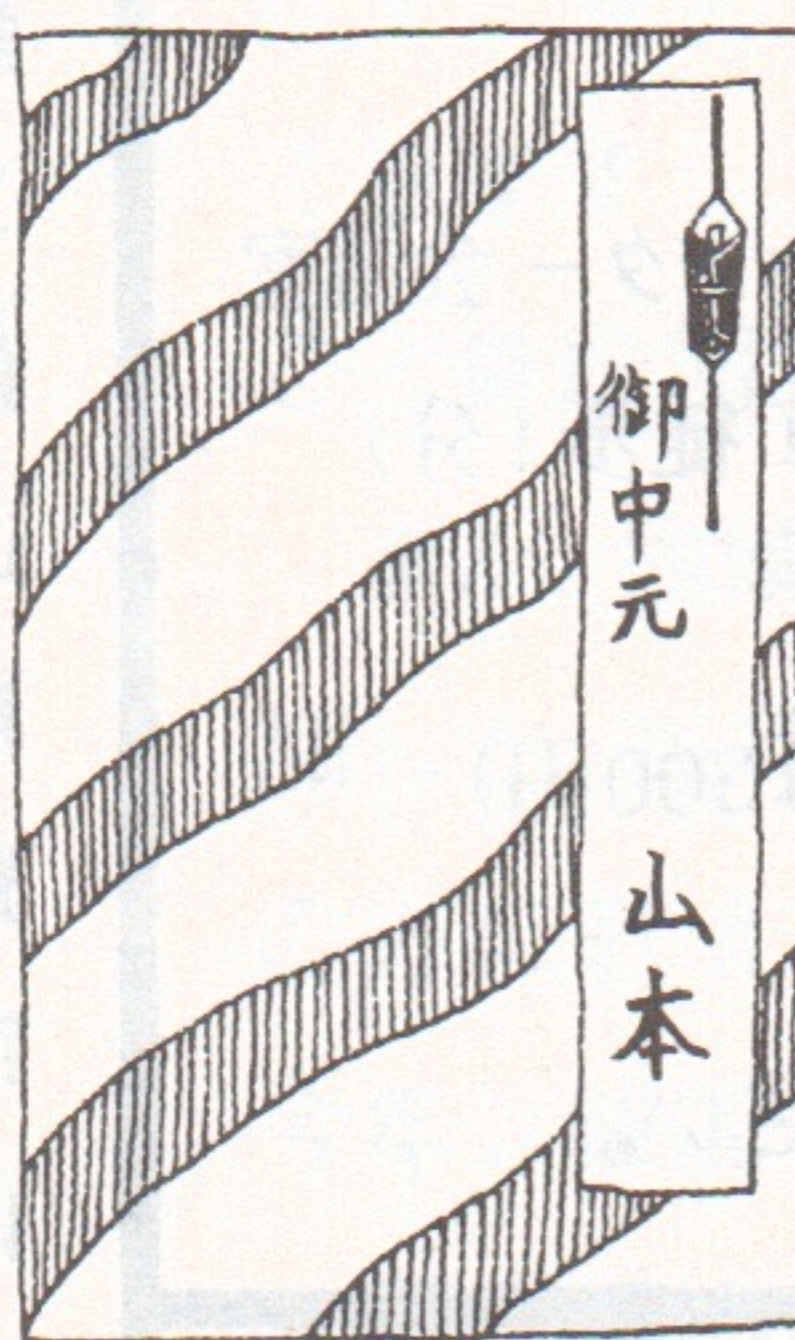
昔は上司など、贈る方のお宅に直接持参するのがマナーでしたが、最近は配送サービスの普及で販売店から送る人の方が多いようです。

お中元

●日頃お世話になっている方へ
上司や知人などにお世話になっている感謝の気持ちを込めて贈り物をするのが、お中元。
贈る時期は、7月1日から15日までで、15日を過ぎたら「暑中お見舞い」、8月8日頃の立秋を過ぎたら「残暑お見舞い」というかたちになります。

お歳暮

●1年間のお付き合いに感謝して
長い付き合いのなかでとても世話になっている人、両親や仲人、病院の主治医などに贈ります。会社の上司でも、ちょっとお世話になったぐらいの人には贈る必要はないかもしれません。
贈る時期は12月初旬から20日頃まで。



ここ数年、どのお店でも資源保護の立場から、商品の箱に直接、短冊のしだけを貼る簡易包装を行なうようになりました。簡易包装だからといって、失礼に当たることはありません。

Q&A

●お中元やお歳暮のやりとりを止めたい時は？

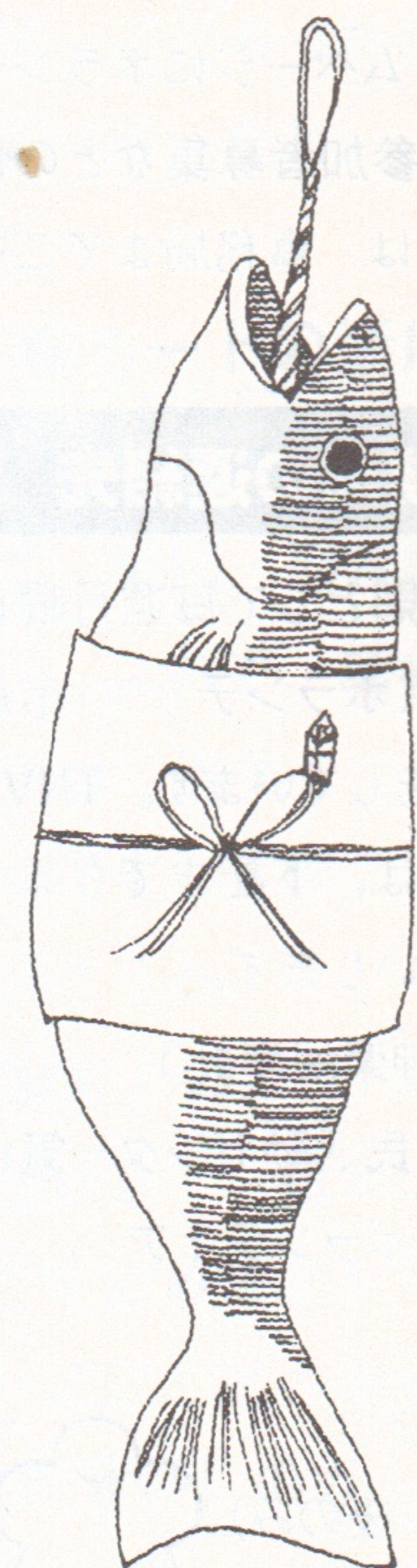
いただいたお礼にお礼状を書きますが、贈答品のやりとりをやめたい旨を失礼にならないように書きます。お礼状を出せば、何か送り返す必要はありません。

●お中元とお歳暮、両方あげないといけない？

近年、お中元を省き、お歳暮だけ贈る人が増えています。時代とともに、形式にこだわらず、今年1年の締めくくりという考えで、1年に1回にする考え方も増えてきているようです。

●相手が喪中の場合はどうするの？

相手が喪中だったり、こちらが服喪期間でも、贈ることに問題はなりません。ただ、差し上げる時に、紅白の水引のし紙はやめ、それに代わる和紙(奉書紙)などに『お歳暮』などの文字と自分の名前を書いて贈るようにします。奉書紙は包装紙の上ではなく、品物に直接かけます。



お中元・お歳暮とは、本来心を贈るという意味があり、感謝の気持ちを形にして贈る物なので、金額や中味よりも気持ちが大切ということをお忘れなく！ どちらもいただいたら、お礼状を書きましょう。相手が年下の場合は、電話でも失礼にあたりません。

NETWORK INFORMATION

日本語ボランティア入門講習会

これから日本語ボランティアを始めたい方のための「日本語ボランティア入門講習会」は、日本語ボランティアに役立つ基礎知識の講座です。初めて日本語ボランティア活動に参加する方は、ぜひ受講してください。どの回からでも受講可能で、全4回を受講された方には修了証をさしあげます。

◆日時

8月9日(月) 午後2～4時
8月23日(月) 午後6～8時
9月13日(月) 午後2～4時
9月27日(月) 午後6～8時
10月18日(月) 午後2～4時
10月25日(月) 午後6～8時

◆テーマ

(8月) 日本語学習者の現状
(9月) 日本語をどのように教えるか
(10月) 日本語ボランティア入門

◆会場

東京ボランティア・市民活動センター 会議室
(JR・地下鉄 飯田橋駅下車 徒歩1分)

◆参加費

1回 600円 (TNVN会員は300円)

◆参加申込み

直接、会場へおこしてください。

会費納入とアンケートにご協力ください

'99年度会費の納入はすでにお済みでしょうか。TNVNは日本語ボランティア活動をしている団体の民間のネットワークとして、会員の会費収入とボランティアスタッフの労力によって活動が支えられています。どうかご理解の上、ご協力をお願いいたします。

またインターネットホームページのためのアンケートにも実施しています。最新の情報を掲載するためにぜひご協力ください。

「ボランティア日本語教室ガイド」、領布中！

『ボランティア日本語教室ガイド』には、145クラスの活動情報を日本語と英語で掲載。あわせて、外国人のための情報源や相談窓口などのデータも掲載しています。さらに、新たに加入した団体の情報や連絡先等が変更になった団体の情報をまとめた改訂版もプラス。ご希望の方は、

東京ボランティアセンターの窓口へ直接おこしいただくか、郵便振替で料金をお払込みください。入金を確認次第、郵送します。

◆領布価格(実費) / 1冊600円

郵送希望の場合は送料込み1000円

◆払込み先

郵便振替口座番号 00100-1-719259

(通信欄に『教室ガイド』と記入)

◆加入者名

東京日本語ボランティア・ネットワーク

TNVNへの入会を希望する方は…

TNVNの会員として入会を希望される方は、まずTNVN事務局までTNVN活動・入会案内を請求してください。(活動・入会案内のみを希望する場合は送料として80円切手、ニュースレターと入会・活動案内の場合は90円切手を同封の上、郵便にてお申し込みください)

TNVNの会員は、日本語ボランティア活動をしている団体が正会員、日本語ボランティア活動に関心のある個人が協力会員となります。入会される場合は、申し込み用紙に必要事項を記入してTNVN事務局まで郵送またはFAXし、あわせて会費をお振り込みください。会員の方には毎回TNVNニュースレター等を郵送するほか、TNVN主催の講習会等へ会員価格で参加できます。

◆会費 / 正会員 年会費 3,000円

協力会員 年会費 2,000円

日本語ボランティア相談

日本語ボランティア相談窓口では、日本語ボランティアに関するご相談・ご質問にTNVNのベテランスタッフがおこたえします。お気軽にご利用ください。

◆日時 / 毎週月曜日 午後2～7時

◆会場

東京ボランティア・市民活動センター

◆電話でご確認の上、おこしてください。

TEL : 03-3235-1171(呼出し)

TNVNの活動情報へ パソコンでアクセス！

インターネットのTNVN活動情報にアクセスして、日頃の活動にお役立てください。また、TNVNへの要望や意見などもお待ちしております。

<TNVNホームページ>

TNVNの講習会など活動情報や教室ガイドの情報も掲載しています。

◆URL : <http://www.t3.rim.or.jp/tnvn/>

◆MAIL ID : tnvn@t3.rim.or.jp

※なお、上記のホームページにボランティア募集やイベント参加者募集などの情報掲載をご希望の方は、事務局までご連絡ください

TNVN事務局の連絡先

TNVN事務局は、原則として毎週月曜日午後2～7時まで東京ボランティア・市民活動センターで活動をしています。TNVNへのお問い合わせ等は、下記までなるべく郵便かFAXでお願いします。

〒162-0823 新宿区神楽河岸1-1

東京ボランティア・市民活動センター 気付

TNVN 東京日本語ボランティア・
ネットワーク

●TEL : 03-3235-1171

(呼出し / 月曜日午後のみ)

●FAX : 03-3235-0050



留学生のための 交流ボランティア活動



東京大学留学生センターでは“在日留学生との交流を通じて相互の友好と理解を深め、留学目的の円滑な達成に寄与するとともに、日本と諸外国との平和と友好発展に貢献する”ことを目的として「留学生交流ボランティアプログラム」をスタート。日本人市民・学生のボランティア（留学生との1対1の組み合わせによる交流）を募集しています。

◆ボランティアの内容

これまでの例では、定期的にセンターの留学生談話室などで日本語を教えたり、留学生を家庭に呼んで交流をしたり、日本人ボランティアが留学生の研究室を見学したり、都内見学などに行ったり、あるいはE-Mailでの交流など、活発な活動が行われています。

◆申し込み・問い合わせ

〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1
東京大学留学生センター留学生相談室
電話：03-5841-2360（直通）
FAX：03-5805-7807
E-Mail：adv@ic.u-tokyo.ac.jp

コンボ緊急募金を受け付け中

日本ユニセフ協会では、コンボ難民救済のための緊急募金を受け付けています。みなさまの温かなご支援をよろしく願いします。

◆募金口座

郵便振替 00110-5-79500
「日本ユニセフ協会」
通信欄に「コンボ」とお書きください。

◆問い合わせ

日本ユニセフ協会 協力事業部
TEL：03-3355-3222

イキイキサンバ・カーニバル

海外からの友人や海外からの移住を受けた人といっしょに浅草サンバ・カーニバルに参加するボランティアを募集します。

- ◆日時／8月28日（土）
- ◆場所／浅草
- ◆定員／50名
- ◆費用／交通費、昼食などは自己負担
- ◆申し込み・問い合わせ
ビバ・トランスプランテーション
TEL：03-5449-5583

'99 ファミン運動 ケニアにTシャツを送ろう！

Tシャツを集めてケニアに支援物資として送る計画を進めています。ご家庭にあるTシャツを個人やグループで集めていただき、ケニアの人々へ私たちの心とともに届け、具体的に人々の生活に役立つ支援を行います。

'99運動への参加方法は

- (1) Tシャツを集めて送るボランティア
- (2) 集荷作業ボランティア
- (3) 募金

◆Tシャツ受付期間

9月6日(月)～24日(金)

◆(1)(2)の問い合わせ&ボランティア登録

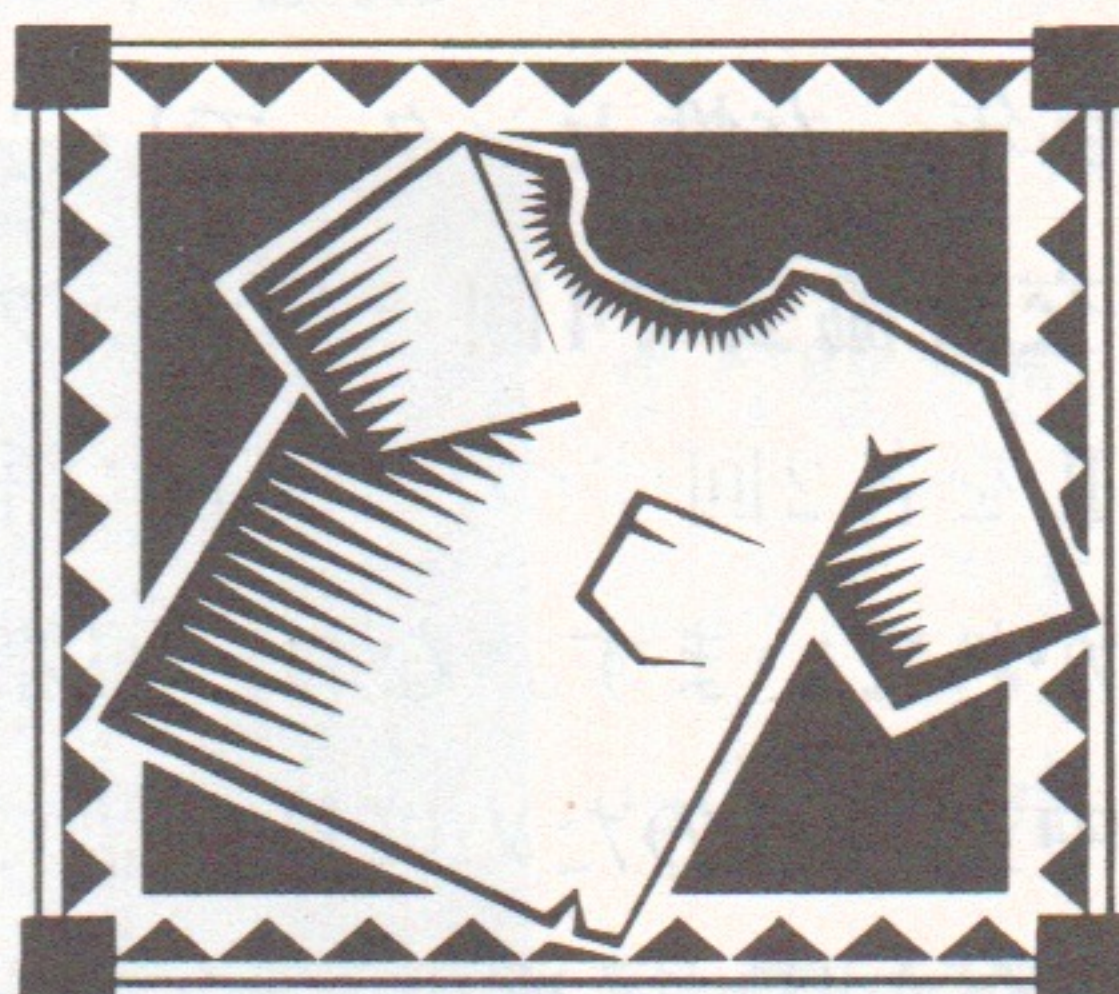
ワールド・ビジョン・ジャパン'99
ファミン運動係

TEL：03-3367-7253

FAX：03-3367-7652

◆募金の送り先

郵便為替 00130-6-254059
「ワールド・ビジョン・ジャパン」
通信欄に「'99ファミン運動」と明記



東京ドーム プロ野球観戦 チケットをプレゼント

日本ハムファイターズのご厚意により「ヤンキースデー」9月5日(日)のプロ野球観戦チケット（日本ハムのデーゲーム・指定席）を在日外国人の方々に無料でプレゼントします。

外国人を引率する日本人の方にもプレゼントしますので、ご希望の方は下記までお申し込みください。

◆80円切手を貼った返信用封筒を同封の上、連絡先・チケットの希望枚数（最大10枚まで）を明記してお申し込みください。

◆締切り／8月20日必着

◆申し込み・問い合わせ

〒187-0045 小平市学園西町2-7-13-102

定住外国人支援ネットワーク

山崎アレン美智子

TEL：042-345-6358

「としま日本語サークル」 ボランティア募集中！

TNVNの会員団体「としま日本語サークル」では日本語ボランティアを募集しています。下記の曜日／場所・時間帯を異にする3つのサークルが活動しています。テキストを使用したり、日常会話など学習者の希望に添った活動をしています。活動を継続できる方、一度見学に来てください。

◆火曜日昼コース

目白厚生会館（豊島区目白1-7-11）
14:00～16:00

◆火曜日夜コース

目白厚生会館（豊島区目白1-7-11）
19:00～21:00

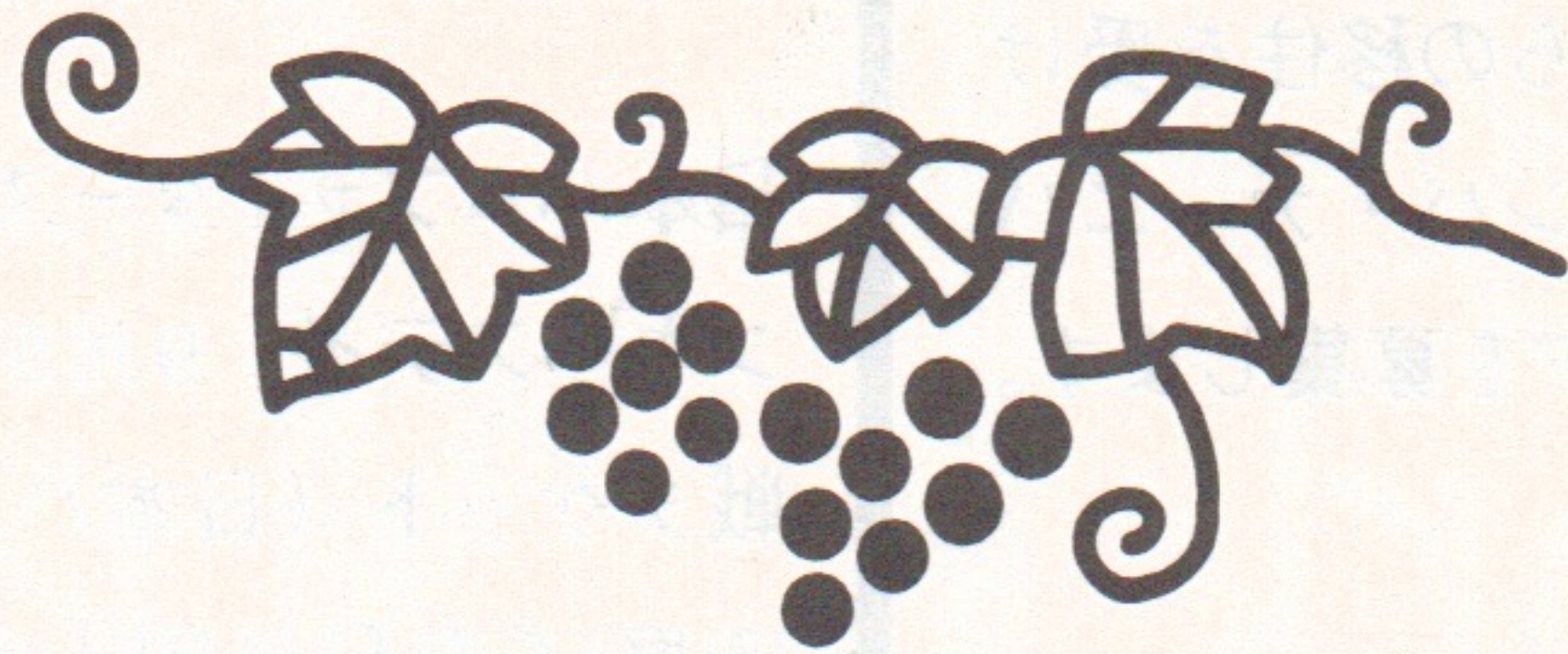
◆土曜日コース

青年会館（豊島区池袋2-35-5）
14:00～16:00

◆申し込み・問い合わせ

豊島ボランティアセンター
豊島区東池袋1-39-2
区役所別館2階（旧池袋保健所の建物）
TEL：03-3984-9375

BULLETIN BOARD



昨年度より毎週月曜日にTNVN事務局スタッフの一員として活動、今年度は会計として隔月に開催される運営委員会にも出席しています。その結果、TNVNの活動の趣旨や実態についてわかりかてきました。

TNVNは団体会員・協力会員・賛助会員をはじめ、東京ボランティア・市民活動センターの人たちの協力を得て活動しています。より有効な活動を展開するためには、運営委員会に出席する少数の人たちの意見だけでなく、多くの方々の意見を反映させることが大切でしょう。ですから、会員団体に所属するメンバーの方々もTNVNの会員であることを忘れずに、代表者任せにしないでどんどん意見や情報を提供していただきたいと思います。

先日、ある新聞に国際交流基金の粗集計として、'98年度に世界で日本語を学

習している人は200万人、過去を累積すると少なくとも世界で500万人、正規に学校で勉強しない人も含めると1000万人を超える人々が日本語を話すようになっているという記事が掲載されていました。

私たち日本語ボランティアも責任ある仕事のひとつとして、今後も常に新しい情報に耳を傾け、各々がプライドと自覚を持って学習者と接するようになりたいものです。日本語教師のプロとは方向性の異なるものとして、あくまでも日本語ボランティアの役割を明確にすることが重要だと思います。ボランティアはプロではないのですから、教師・先生とは違うはずで、国籍や人種による差別はもちろ、傲慢な態度で接しないように、あくまでも謙虚な気持ちで支援者として学習者と向き合ってほしいと願います。

山縣 みつる(TNVN 会計)

SPECIAL THANKS

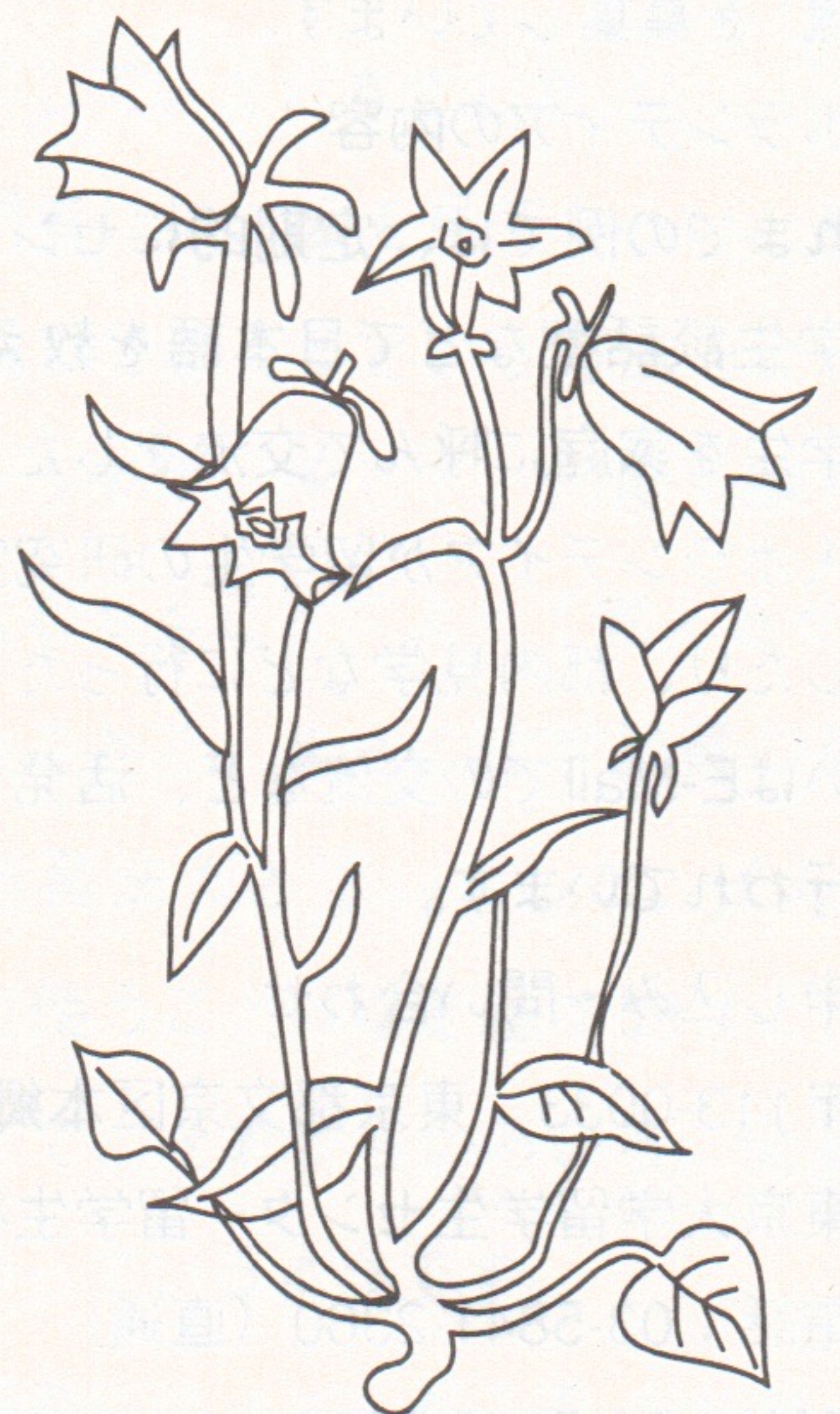
★(財)アジア学生文化協会 工藤 正司 様
快く取材に応じていただきました。

WELCOME!
新入会員のご紹介

◆協力会員(個人)

川口 義一、谷村 喜代子、長谷川 財子
(敬称略)

'99年7月25日現在の会員数は、正会員
70団体・協力会員74名・賛助会員10です。



地域の日本語ボランティア事情

港区発

港区では、1983年度、当時区民の5%を占めていた外国人住民も区の施設を利用できるようにと、女性センターで「第1回外国婦人のための初級日本語講座」が開催されました。その時ボランティアとして手伝った人たちがグループを作り、ボランティア日本語教室第1号をスタートさせました。その後次々と日本語ボランティア自主グループが生まれ、それぞれに活動を始めました。また、女性センター主催の「日本語ボランティア講座」終了後毎にできたグループも加わり、現在、11グループ、13教室が女性センターで活動しています。そのほか、わかっている

ところでは、区内の他の施設で3つのボランティア日本語教室が開かれています。

一方、ボランティア教室ではありませんが、毎年、女性センターで1~2回、港区国際交流協会では4回(ステップIとステップIIを各2回ずつ)の日本語初級講座が開かれています。なお、国際交流協会では中上級者のために日本語でおしゃべりする会を月に一度催しています。

今年、区内の日本語ボランティアの連絡会を結成しました。情報交換や相互学習の場となっていくと良いと願っています。

(林川 玲子/ビバ日本語教室)

編集後記

●多くのボランティア日本語教室が夏休みを迎えるなか、TNVN事務局は入門講習会の開催など8月も平常通りの活動をしています。毎週月曜の午後には各地で活動しているスタッフが集まっていますので、どうぞお気軽にお立ち寄りください。



発行人/中田 紀子
編集人/前田 恭子
レイアウト/鶴田 環恵